

平成29年2月17日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	農林大学校	氏名	姫宮 雅美
派遣先 団体名	島根県障がい者就労事業振興センター		
<p>① 研修の日時</p> <p>(1)平成28年9月2日(金) 10:00～16:30</p> <p>(2)平成28年10月6日(木)～7日(金) 10:00～17:00</p> <p>(3)平成28年11月12日(土)～13日(日) 9:00～17:00</p> <p>② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <p>(1)センターミーティング</p> <p>東部・西部のセンター職員が集まり、月1回の定期ミーティングが行われており、その会議に参加させていただいた。その中では、県内の福祉事業所で行われている活動への支援報告があり、新商品開発やパッケージデザインへのアドバイス、販路開拓などセンター職員の方々が行われている活動状況を学ぶことができた。また、各関係機関、民間企業、生産者(農家)、福祉事業所同士などをマッチングさせるといった重要な役割も担われており、連携することで新たな事業を掘り起こし、工賃向上につながる支援が行われていた。会議に出席させていただき、県内の各福祉事業所の活動内容や課題などを知ることができた。</p> <p>(2)県内障がい者施設訪問</p> <p>センターでは定期的に県内各事業所を訪問し、運営のための様々なアドバイスを現場でされており、その訪問に同行させていただいた。訪問先は、神楽の衣装や面の製作を行う事業所、サツマイモを主原料にレトルト加工等を行っている事業所、農業生産に取り組む事業所(2カ所)の4カ所を訪問させていただいた。どの事業所も商品作りにこだわりを持って取り組んでおられ、そこで働いておられる障がい者の皆さんもやりがいを持って仕事をされていたのが印象的だった。そこでも、センター職員の方が活動状況の確認や情報提供、また相談も受けられており、こうした方々の存在が福祉事業所の支えになっていることを実感した。</p> <p>(3)イオンモール出雲におけるマルシェ対応</p> <p>センター業務の1つとして、県内の障がい者施設で製造・販売されている商品を一般に広く知ってもらうため、スーパーやドラッグストア等でマルシェとして商品販売を行っておられ、今回はイオンモール出雲で行われた「しふくのマルシェ」の運営補助を行った。各福祉事業所からも職員と障がい者の方が販売促進に参加され、お互いの活動について情報交換も行われていた。また、直接販売に参加できなかった事業所の商品については、支援センターで商品説明や販売を行った。また、当</p>			

日のイベントとして「サンタクロースとのジャンケン大会」があり、ジャンケンに参加した子供に福祉事業所のクッキーをプレゼントする補助をさせていただいた。そうしたイベントを通じて、福祉事業所の商品を知ってもらおうということも大切なことだと思った。

③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

今回の研修に参加させていただき、多くの福祉事業所の活動内容を学ぶことができた。今まで知らなかったけれど、自分の身近にある商品や施設、事業などに福祉事業所が関わっていると初めてわかったものも多くあり、自分が知らなかっただけで実は深く関わっていることに気づかされた。また、素材にこだわった高品質な商品を作っておられる事業所も多く、昔ながらの伝統的な商品作りを行っているところもあり、こうした福祉事業所が地域の文化を継承している部分もあるのではないかと思われた。

現在、業務の中で福祉事業所の職員の方に対して農作業指導を行う研修を担当しているが、そうした指導員の方々が普段施設ではどのような活動をされているのか具体的には見えていなかった。今回この研修に参加したことで、福祉事業所で行っておられる活動を深く知ることができた。今回の研修で感じたことを今後の業務にも活かしていきたい。

最後になりましたが、お忙しいなか明るい雰囲気でも研修を受け入れてくださり、たくさんのご質問に対しても快くご指導くださいました島根県障がい者就労事業振興センターの皆さまに深く感謝します。ありがとうございました。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)